

三月十四から十八日まで、仙台で開催される「第三回国連防災世界会議」に向け、カウントダウンが始まりました。

二〇一一年の東日本大震災から四年間、宮城に住む私たちは防災・減災と向き合い、意識を高めてきました。「絆」「復興」「地域再生」「風評」などの言葉も日常的に使われるようになりました。また、最近「風化」も進み、復興途中の被災地が取り残される思いを強く感じている被災者にも、この世界会議開催は大きな意義があります。一般の方も気軽に参加できる防災・減災に関する三百五十以上のパブ

三幸学園仙台こども専門学校専任講師
平田千早子さん



東北復興日記

128

未来に進む決意の場に

リック・フォーラム(シ
ンポジウムや展示企画の
総称)が企画され「もう
一度考える五日間」に市
民の期待も高まっていま
す。写真。

三月十五日に「大震災
と向き合うために・未来
援および復興活動の経験



の地域づくり人材育成ネ
ットワーク」が主催する
フォーラム(会場・TK
Pガーデンシティ仙台勾
当台三階 ホール3)に
参加します。テーマは
「東日本大震災と緊急支
援および復興活動の経験

を、さまざまな視点から
世界の人々と共有する。
未来の地域づくりです。
第三セッション「東北
の美しい未来づくりをこ
こから」では、首都圏と
被災地の女性による「J
KSK結核プロジェクト」
「いわきおてんとS
UN」 「東北の美しい未
来創造塾」から生まれ
た、宮城県内各地や岩手
県宮古市でのプロジェクト
を報告します。
デイスカッションでは
女性の力で未来づくり
を！を合言葉に、福島・
双葉八町村の復興を願う
「広野町町民帰還応援プ
ロジェクト」なども提案
します。盛りだくさんの
内容ですが、まさに四年
間に積み上げられた知恵
と教訓とスキルを、持続
可能な未来づくりのデザ
インに生かします。英語
の通訳もあります。
震災がなければ出会え
なかった人、広がらな
かった視野、得ることがで
きなかったスキルなどを
かみしめ、未来に強く進
む決意の場としたいと考
えています。

この連載は、東京の
NPO法人JKSK
と、被災地の女性たち
が協力して復興に取り
組む「結核プロジェクト」
の協力を得て、掲
載しています。